

田辺三菱製薬株式会社

2011年度第3四半期
決算概況

(2011年4月1日～2011年12月31日)



田辺三菱製薬

2012年1月31日

取締役常務執行役員

小酒井 健吉

2011年度第3四半期 決算概要

(平成24年3月期)



2011年度第3四半期累計期間 決算概況

	2011年度	2010年度	増減		通期予想	進捗率
	億円	億円	億円	%	億円	%
売上高	3,157	3,195	-38	-1.2	4,050	78.0
売上原価	1,193	1,224	-30	-2.5	1,500	79.6
売上原価率	37.8%	38.3%			37.0%	
売上総利益	1,964	1,971	-7	-0.4	2,550	77.0
販管費	1,364	1,282	+82	+6.4	1,870	73.0
営業利益	599	688	-89	-13.0	680	88.1
経常利益	603	693	-90	-13.0	680	88.8
四半期純利益	358	392	-34	-8.7	375	95.6

※通期予想:2011年7月29日の第1四半期決算発表時に公表した2011年度予想値

事業別売上高

【2011年度第3四半期累計期間 決算概況】

	2011年度	2010年度	増減		通期予想	進捗率
	億円	億円	億円	%	億円	%
売上高	3,157	3,195	-38	-1.2	4,050	78.0
(うち海外売上高)	(205)	(196)	(+9)	(+4.7)	(270)	(76.1)
医薬品事業	3,083	3,123	-40	-1.3	3,955	78.0
国内医療用医薬品	2,785	2,826	-41	-1.5	3,580	77.8
海外医療用医薬品	138	163	-24	-15.2	185	74.9
一般用医薬品	43	44	0	-1.0	50	87.2
医薬品その他	115	89	+26	+29.3	140	82.4
その他	74	72	+2	+2.8	95	78.0

※通期予想:2011年7月29日の第1四半期決算発表時に公表した2011年度予想値

医療用医薬品 主要製品売上高

【2011年度第3四半期累計期間 決算概況】

		2011年度	2010年度	増減		通期予想	進捗率
		億円	億円	億円	%	億円	%
国内医療用医薬品		2,785	2,826	-41	-1.5	3,580	77.8
重点製品	レミケード	509	467	+42	+9.1	664	76.7
	ラジカット	187	223	-36	-16.3	237	79.0
	アンプラーグ	121	130	-8	-6.2	150	81.1
	メインテート	106	94	+11	+12.5	134	78.9
	タリオン	92	83	+9	+11.1	145	63.5
	タナトリル	66	77	-10	-13.9	82	81.2
新規	クレメジン(注1)	90	-	+90	-	122	74.3
	ワクチン	245	243	+1	+0.8	295	82.9
	(ミールビック)	(74)	(90)	(-15)	(-17.3)	(100)	(74.4)
	(ジェービックV)	(61)	(53)	(+8)	(+15.1)	(85)	(72.3)
	(インフルエンザ)	(87)	(76)	(+10)	(+14.2)	(82)	(106.1)
	田辺製薬販売取扱品(注2)	134	101	+32	+32.2	173	77.4
	技術導出契約金等	50	17	+32	+186.7	60	83.3

注1: 2010年度は第一三共に販売委託していたが、同社への販売額は開示していない

注2: ジェネリック医薬品その他、田辺三菱製薬より移管した長期収載品を含む

売上原価・販管費

【2011年度第3四半期累計期間 決算概況】

	2011年度	2010年度	増減		通期予想	進捗率
	億円	億円	億円	%	億円	%
売上高	3,157	3,195	-38	-1.2	4,050	78.0
売上原価	1,193	1,224	-30	-2.5	1,500	79.6
売上原価率	37.8%	38.3%			37.0%	
売上総利益	1,964	1,971	-7	-0.4	2,550	77.0
販管費	1,364	1,282	+82	+6.4	1,870	73.0
研究開発費	516	475	+40	+8.5	690	74.8
人件費	388	382	+5	+1.5	515	75.4
のれん償却額	75	76	0	-0.1	100	76.0
その他	384	348	+36	+10.4	565	68.0
営業利益	599	688	-89	-13.0	680	88.1

※通期予想:2011年7月29日の第1四半期決算発表時に公表した2011年度予想値

営業外損益・特別損益

【2011年度第3四半期累計期間 決算概況】

	2011年度	2010年度	増減		通期予想	進捗率
	億円	億円	億円	%	億円	%
営業利益	599	688	-89	-13.0	680	88.1
営業外損益	4	5	0			
経常利益	603	693	-90	-13.0	680	88.8
特別利益	-	6	-6		-	
特別損失	33	63	-30		45	74.3
減損損失	29	3	+25			
投資有価証券評価損	1	42	-41			
その他	3	17	-14			
四半期純利益	358	392	-34	-8.7	375	95.6

※通期予想:2011年7月29日の第1四半期決算発表時に公表した2011年度予想値

2011年度上市の新製品

A decorative horizontal bar with a blue-to-teal gradient, starting as a solid blue bar on the left and fading into a light teal gradient on the right.

国内事業躍進のドライバー



* ヤンセンファーマにて開発実施中

新製品の状況(1)

■ レクサプロ:うつ病・うつ状態治療薬

- 2011年8月新発売（持田製薬と共同販売）
- 海外と同様に本剤の臨床的評価は高く、精神科領域に強みを持つ当社子会社の吉富薬品を加えた3社の営業力を結集することで、早期にSSRIトップシェアをめざす

■ シンポニー:関節リウマチ治療薬

- 2011年9月新発売(ヤンセンファーマと共同販売)
- 先行する競合品の上市時と比較し、同等以上のペースで市場浸透している
- 皮下注製剤での第一選択薬として位置づける専門医が増えつつあり、早期の大型化をめざす

新製品の状況(2)

■ テラビック: C型慢性肝炎治療薬

- 2011年11月新発売
- 適正使用情報の提供を徹底し、全例調査(3000例)を実施中
- 全例調査の契約・症例登録は着実に進捗
(1/30現在、契約施設数363軒、登録例数532例)
- 副作用は想定範囲内

■ イムセラ: 多発性硬化症治療剤

- 2011年11月新発売 (ノバルティスファーマと共同販売)
- 適正使用情報の提供を徹底し、全例調査(1000例:両社)を実施中
- 全例調査の契約・症例登録は着実に進捗
(1/22現在、両社で契約施設数84軒、登録例数73例)

開発パイプラインの進捗

A decorative horizontal bar with a blue-to-teal gradient, starting as a solid blue line on the left and fading into a light teal on the right.

開発パイプラインの進捗状況

New Value Creation



2011年度第2四半期決算発表時点(2011年10月31日)からの主な変更点

自社開発品

◆ テラビック (NS3-4Aプロテアーゼ阻害剤)

効能追加: C型慢性肝炎(ジェノタイプ2型)

国内フェーズ3試験

(2011年12月)

共同開発品(一般財団法人阪大微生物病研究会: 阪大微研会)

◆ BK-4SP (百日せき、ジフテリア、破傷風、不活化ポリオ混合ワクチン)

百日せき、ジフテリア、破傷風及びポリオの予防

国内申請(阪大微研会)

(2011年12月)

共同開発品(アルフレッサファーマ)

◆ モディオダール (精神神経用剤)

効能追加: OSAS*1におけるCPAP*2治療後の眠気

国内承認取得(アルフレッサファーマ)

* 1. OSAS: 閉塞性睡眠時無呼吸症候群、* 2. CPAP: 持続陽圧呼吸

(2011年11月)

海外子会社導入品(タナベインドネシア)

◆ リバロ (HMG-CoA還元酵素阻害剤)

原発性高脂血症、混合型脂質異常症

インドネシア承認取得

(2011年11月)

2型糖尿病治療薬「MP-513」

- ▶ 2011年9月、ハンドック・ファーマシューティカルズ(韓国)に韓国における独占的開発・製剤製造・販売権を許諾
- ▶ 糖尿病領域における高い開発力と販売力(同領域の製品売上高トップ)により、MP-513の製品価値最大化を図る

そう痒症改善剤「MT-9938*」

*: 東レ開発番号: TRK-820

- 2011年10月、東レより北米における独占的開発・販売権を取得
- 米国展開上、戦略領域と位置付ける腎領域の開発パイプラインを拡充
- 血液透析患者において、抗ヒスタミン剤などの既存治療では効果不十分な痒みに有効性を示す

Hibワクチン「HibTITER(ヒブタイター)」

- 2011年12月、Nuron Biotech(米国)よりHibTITERおよびHibTITERを用いた混合ワクチンの日本における独占的開発・販売権を取得
- 乳幼児のHib感染による髄膜炎は、重症化した場合、後遺症が残り死に至る場合もあり、ワクチンによる予防が重要
- HibTITER(単味)の開発後、混合ワクチンの開発も行う予定

*New **Value** Creation*

「新たな価値を創造しつづける企業」へ

注意事項

本資料に記載した一切の記述内容は、現時点での入手可能な情報に基づき、一部主観的前提をおいて合理的に判断したものであり、将来の結果はさまざまな要素により大きく異なる可能性がありますので、ご了承ください。